

不登校に特化したオンライン授業を始め、 子どもが自分に合った支援を選べる環境を整備

熊本県 熊本市教育委員会

文部科学省が公表した「令和4年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」では、熊本市の不登校児童生徒数が2,760人（小学校1,092人、中学校1,668人）と5年間で2倍になるなど、同市の大きな課題となっている。こうした中、熊本市教育委員会では不登校児童生徒の社会的自立に向けた様々な支援を行っている。そして、2022年度から新たにICTを活用して始めたのが、オンライン学習支援「フレンドリーオンライン」だ。

自治体概要

熊本市は、福岡市、北九州市に次いで九州で3番目に多い人口を擁する政令指定都市。市の教育振興基本計画では「豊かな人生とよりよい社会を創造するために、自ら考え主体的に行動できる人を育む」を基本理念に掲げる。ICTを積極的に活用し、不登校児童生徒への支援の充実を図る。

人口 約73万7,000人 面積 390.3km²
市立学校数 小学校 92校、中学校 42校、特別支援学校 2校
児童生徒数 小学校 4万2,171人、中学校約1万9,515人
教員数 3,927人 スクールカウンセラー 48人
スクールソーシャルワーカー 16人
教育支援センター 6か所

不登校児童生徒に向けて 多彩な支援を提供

熊本市は、2016年に教育大綱を策定した際、児童生徒、教職員、保護者などへのアンケート調査、中学生・高校生を対象としたワークショップを行った。そこで、「いのちを大切に
する教育」「いじめ・不登校の問題」に関する意見が多く上がったことから、教育大綱の重点的な取り組みに、「いのちを大切に
する心の教育の充実」といじめや不登校への細やかな対応」を掲げるに至った。現在、不登校の問題に対しては、学校復帰という結果のみを目標とするのではなく、子どもたちの意思を十分に尊重しながら、それぞれのニーズに応じた支援の充実を図ることを方針としている。

熊本市の不登校児童生徒への支援は、大きく3つの「場」で展開される(図1)。それは、「学校内」「通所施設」「オンライン」だ。

学校内における支援としては、学級支援員、不登校対策サポーターの配置、別室登校の児童生徒に向けた

学校による授業配信などがあると、熊本市教育委員会（以下、市教委）総合支援課の吉里麻紀課長は説明する。

「このうち不登校対策サポーターは、不登校の課題を抱える中学校に1人配置されます。不登校児童生徒への対応・支援の状況を把握して、必要に応じて担任などと連携し、家庭ともかかわりを持って、不登校の防止や早期対応への指導・助言を行っています。2023年度は、市内12の中学校に配置されました」

また、小学校に限るが、児童が悩みなどを気軽に話せ、ストレスを和らげることができるような人材を相談員として配置する、心のサポート相談員の事業を実施。2018年度より40校に配置している。

通所施設での支援は、不登校児童生徒の社会的な自立を支援することを目的とした活動で、市内6か所まで拡充した教育支援センター「フレンドリー」を中核として行う。スポーツや読書、仲間づくり、教科学習、体験活動など、社会的な自立につな



総合支援課
課長

吉里麻紀

よしざと・まき
2023年度から現職。



総合支援課
指導主事

宮津光太郎

みやつ・こうたろう
2021年度から現職。

※プロフィールは取材時（2024年3月）のものです。

がる支援を教育支援センターごとに行っている。2022年度は87人が利用した。

さらに、不登校児童生徒の学びの選択肢を増やすため、2024年度以降は市教委とフリースクールで構成される連絡協議会を設置して、両者の連携を強化していく予定だ。

不登校児童生徒だけが 参加するオンライン授業

不登校児童生徒へのオンラインでの支援は、2022年4月から開始した

「フレンドリーオンライン」によって行われている（P.17実践事例）。コロナ禍で整備された1人1台のタブレット端末を利用し、AI型学習アプリを活用して個別最適な学習を進めるとともに、教員経験のあるオンライン学習支援員が、チャット機能などを通じて双方向型の学習支援を月曜日から金曜日まで行っている。また、オンライン学習支援員が美術館や博物館の専門家と協働した出前授業を配信するなど、不登校児童生徒の興味・関心を高めるための工夫も行っている。フレンドリーオンラインは2023年度に計403人（小学生124人、中学生279人）が登録した。

「学校内」「通所施設」「オンライン」と、異なる場による不登校児童生徒への支援の充実は、子ども一人ひとりが自分に合った学びを柔軟に選択できるようにするためだと市教委の宮津光太郎指導主事は語る。

「不登校児童生徒は、在籍する学校の授業配信、市が運営する通所施設やフリースクールでの活動、フレンドリーオンラインの学習から、その時の自分の状態に合った学びの場を選択しています。大切なのは、子どもが望んだ時にそれぞれの学びの場とスムーズにつながれること、そし

図1 不登校児童生徒への支援



て、学びを通じた人とのつながりが途切れないことです」

市教委では、年間で欠席日数が20日を超えた児童生徒について、欠席日数や欠席要因、さらに、どのような学びの場を利用しているかを、毎月各学校から報告してもらい、早期発見・支援に生かしている（図2）。そして、学びの支援を受けていないことが分かった場合は、総合支援課の職員が学校に電話をし、子どもと家庭の状況を聞き取り、必要に応じてスクールソーシャルワーカーなどの専門家の支援を提案している。

楽しい学校づくりが不登校対応の要

スクールカウンセラーについては、2017年度からは全中学校42校を拠点校として人員を配置し、すべての小・中学校に対応できる体制を整備した。また、スクールソーシャルワーカーについては、計16人を要請に応じて学校に派遣している。

このほか、熊本市独自の不登校児童生徒への支援として、熊本大学教育学部と連携し、小・中学校からの依頼に応じて、大学生を家庭や学校

図2 長期欠席児童生徒報告（4月からの欠席日数が20日を超える児童生徒の報告）

学年	学級種	氏名	性別	登校していない日数		累計欠席日数のうち 指導要録上 出席扱い 総日数	本月、支援を受けたものは○、本年度に支援を受けたものは○を入力											欠席要因		欠席の 原因に いじめ が入っ てい ないか の本人 及び保 護者へ の確認	種別				
				累計 欠席 日数	累計 停止・ 忌引等 総数		S C	S S W	心 のサ ポ ー ト 相 談 員	ユ ア ・ フ レ ン ド	別 室 で の 学 習 支 援	学 校 か ら の 授 業 配 信	フ レ ン ド リ ー オ ン ラ イ ン	フ レ ン ド リ ー オ ン ラ イ ン	フ リ ー ス ク ー ル 等	フ リ ー ス ク ー ル 等 の 民 間 施 設 の 名 称	フ リ ー ス ク ー ル 等	フ リ ー ス ク ー ル 等	主 要 因			そ の 他 の 要 因			
1	通	熊本太郎	男	60	60	5	○	○															確認済	不登校	
2	通	熊本次郎	男	40	40	32		○																確認済	不登校
3	通	熊本三郎	男	70	70																			確認済	不登校
4	支	肥後つばき	女	50	50	30																		確認済	不登校
5	通	肥後さくら	女	60	60	10																		確認済	不登校
6	通	肥後しょうぶ	女	30	5	35	20			○	○													確認済	不登校

※熊本市教育委員会の提供資料をそのまま掲載。

に派遣し、話し相手・遊び相手になってもらう「ユア・フレンド」を展開している。ユア・フレンドは既に20年以上続いている取り組みで、2023年度は235人の大学生が登録している。不登校児童生徒の中には気軽に話ができる大学生に心を開き、大学生が学校を訪問する日に登校する子どももいるという。ユア・フレンドの大学生はフレンドリーオンライ

ンの授業配信にも参加する場合があるが、子どもたちは大学生に対してチャット機能で積極的に質問をして理解を深めるなど、様々な人材による不登校児童生徒への支援が相乗的に効果を発揮している。

吉里課長は、学校を子どもたちにとって楽しく、安心して過ごせる場所にしていくことこそが、不登校の対応の要であり、予防にもつながる

はずだと語る。

「教育大綱の策定などを通じて、子どもの声に耳を傾けると、いじめや差別のない学校を望んでいることを強く感じます。校則の見直し、人権教育の充実など、学校を安心・安全な場とするための様々な取り組みを、教育委員会内で連携しながら今後も充実させていきたいと考えています」

実践事例

不登校児童生徒が学びや社会・人とつながる オンライン学習支援を実施 「フレンドリーオンライン」の取り組み

創造的な活動や課題追究活動も展開

熊本市が2022年度より実施するオンライン学習支援「フレンドリーオンライン」では、熊本市立本荘小学校・同市立芳野中学校に配信スタジオを設置。小学生向け・中学生向け2種類の双方向の授業を、月曜日から金曜日の午前9時30分から午後3時まで（水曜日は午前中のみ）配信している。子どもは自分のニーズや興味・関心に合った内容を選択して学ぶ（図3）。

オンライン授業では、学習アプリを活用した教科学習（セルフタイム）、NHKなどの教育動画を視聴する学習（ムービータイム）、校外からの出前授

業（わくわくタイム）を配信。さらに、創造的な活動の「クリエイティブタイム」や、様々な課題を追究する「ミッションタイム」もオンラインで配信する。また、中学生向けには、国語・社会・数学・理科・英語の各教科の担当教員が授業を配信する。

つながりの中で自立する子どもたち

フレンドリーオンラインでは、学習支援のほかに、スクールカウンセラーが様々なテーマで話をしたり（希望者はオンラインや対面での相談が可能）、「ユア・フレンド（P.16～17参照）」に参加する大学生と交流したりする機



講師
オンライン学習支援員

西尾 環

にしお・たまき

ICT加配及びオンライン学習支援員として本荘小学校に赴任して3年目。

会も設けている。配信拠点の本荘小学校でオンライン学習支援員として活動する西尾環先生は、フレンドリーオンラインでは、「つながり」をつくるための様々な学習コンテンツも提供していると話す。

「フレンドリーオンラインで大切にしているのは、不登校児童生徒が学びや社会・人とつながる場として機能することです。そのため、チャット機能を使って私たち支援員や友だち同士でおしゃべりする時間もとても大切です。自分の好きなことや興味のあることについて気軽におしゃべりするうちに、自然と将来の夢を語れるようになり、社会的な自立に向けての一步を踏み出すことにつながります」

図3 フレンドリーオンライン 小学生用基本時間割（2023年度）

	月曜日		火曜日		水曜日	
9:30～9:40	スタートタイム					
9:40～9:55	セルフタイム（学習アプリを使った学習）					
10:00～10:25	5年生 ムービー タイム	セルフ タイム	3年生 国語	3年生 ムービー タイム	セルフ タイム	5年生 国語
10:35～11:00	4年生 算数		6年生 ムービー タイム	6年生 算数		4年生 ムービー タイム
11:15～12:00	クリエイティブタイム ミッションタイム				ジャーネタイム	
	お昼ご飯 お昼休憩					
14:00～14:45	自主学習					
14:50～15:00	ジャーネタイム					

※熊本市教育委員会の提供資料を基に編集部で作成。

Web VIEWnext ONLINE

取り組みの詳細をウェブサイトで紹介しています。右記の2次元コードからアクセスしてください。

